

EU Indicators

欧州経済指標コメント：1月ユーロ圏消費者物価(速報)

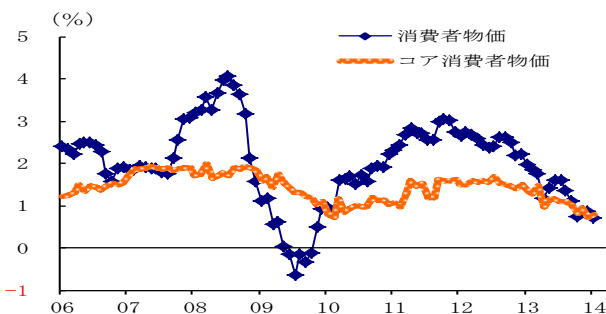
発表日：2014年1月31日(金)

～デフレ注意報が再発令～

第一生命経済研究所 経済調査部
 首席エコノミスト 田中 理
 03-5221-4527

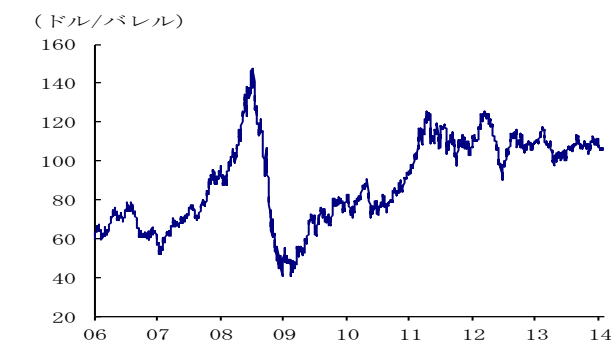
- 1月のユーロ圏の消費者物価の速報値（EU統一基準）は前年比+0.7%と前月（同+0.8%）から上昇率が小幅縮小し、ECBが緊急利下げを決断した昨年10月の同+0.7%に再び並んだ。速報時点で公表済みの内訳は、コア物価が同+0.8%と前月（同+0.7%：統計開始以来の最低水準）からやや持ち直した一方、食料・アルコール・たばこ価格が同+1.7%と前月（同+1.8%）から僅かに上昇率が縮小、エネルギー価格が同▲1.2%と再び下落に転じ（前月は横ばい）、全体の物価計数を押し下げた。エネルギーの押し下げ寄与度は前月：ゼロ%ポイント→今月：▲0.13%ポイントに拡大した。
- 公表済みの国別の消費者物価（統一基準）は、ドイツ（同+1.2%）とスペイン（同+0.3%）が何れも前月から上昇率が不変。1月からフランスで付加価値税率が引き上げられ、物価の押し上げに働いたと見られるが、全体を押し上げるには至らなかった。
- 景気は緩やかな回復基調にあるが、デフレーション圧力を払拭するには程遠い状況。足許のブレント原油価格の推移が続けば、2・3月にかけてエネルギー価格は前年割れが続く公算が大きい（特に2月は下落幅が一段と拡大する恐れ）。3月のコア物価は前年の裏で低めに出やすい（昨年2月：同+1.3%→昨年3月：同+1.5%）。目先の物価統計は弱めの推移が続くとみられ、デフレ懸念が強まりやすい状況が続こう。一方で各種のマクロ・金融指標は景気回復の動きが広がっていることを示唆し、2月6日の次回理事会での追加緩和の決定打とはならないだろう。物価低迷下で景気再失速の可能性が高まるようなら、主要政策金利の25bps未満の利下げ（預金金利はゼロに据え置き）で対処しよう。

■ユーロ圏：消費者物価（前年比）



注：コア物価は食料・タバコ・アルコール・エネルギー除く
 出所：Eurostat

■北海ブレント原油先物価格



出所：Reuters Ecowin

■ユーロ圏の消費者物価 (%)

	2013				2013							2014
	1Q	2Q	3Q	4Q	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
消費者物価 (前期比)	0.4	0.1	0.5	-0.1	0.2	0.2	0.1	0.0	-0.2	0.0	0.1	-
消費者物価 (前年比)	1.9	1.4	1.3	0.8	1.6	1.6	1.3	1.1	0.7	0.9	0.8	0.7
コア消費者物価 (前期比)	1.4	1.1	1.1	0.8	1.2	1.1	1.1	1.0	0.8	0.9	0.7	0.8
コア消費者物価 (前年比)	1.4	1.1	1.1	0.8	1.2	1.1	1.1	1.0	0.8	0.9	0.7	0.8
食料品 (前年比)	2.6	3.0	2.8	1.3	3.2	3.3	3.0	2.2	1.4	1.1	1.4	-
アルコール (前年比)	2.6	2.8	2.6	2.7	2.9	2.7	2.5	2.5	2.7	2.7	2.8	-
タバコ (前年比)	4.6	3.9	5.2	4.0	3.7	4.9	5.4	5.4	4.0	4.0	4.0	-
エネルギー (前年比)	3.2	0.3	0.1	-0.9	1.6	1.6	-0.3	-0.9	-1.7	-1.1	0.0	-1.2

注：消費者物価の前期比は季節調整後。コア消費者物価は食料・アルコール・たばこ・エネルギーを除く。 出所：Eurostat

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。